

主体的・協働的に学習に取り組む子どもの育成

～第3学年「大豆の変身！」の実践を通して～

阿波市立土成小学校 教諭 山添 妙子

1 はじめに

本校がある土成町は吉野川中流域北岸に位置し、2005（平成17）年に阿波郡の市場町、阿波町と板野郡の吉野町、土成町とが合併してできた阿波市の東部にある。基幹産業は農業で、稲作のほか、トマト、なすなどの野菜やイチゴ、メロンなどの果物の栽培が盛んである。

そうした環境の中、子どもたちは、生活科でトマトやキュウリなどの夏野菜を育てるなどして農業に触れてきている。3年生では、4年生が前年度育てた大豆をプレゼントしてくれ、大豆を育てることになった。大豆が熟さないうちに収穫して食す枝豆はよく目にしており、子どもたちの関心は高い。

そこで、「大豆の変身！」をテーマとした総合的な学習に取り組んだ。枝豆ばかりでなく、多くの加工食品の材料でもある大豆は、他教科と関連させることでより多様な学習活動ができると考えた。

また、本学級の子どもたちは、話し合い活動で意見を言えなかったり、逆に聞けなかったりして、学びが深まらないことがあるが、子どもたち主体の話し合いを重視し、対話的な学習活動を繰り返し行うことで、主体的・協働的に学ぼうとする子どもの育成を目指し、本研究に取り組んだ。

2 研究の内容

主体的・協働的に学習に取り組む子どもを育成するために次のことが必要であると考えた。

- (1) 総合的な学習を軸とした横断的な学習指導計画の構築
- (2) 対話を通じた探究的な活動の充実

3 単元について

(1) 単元目標

- ・大豆が様々な食品に変化することを調べたり、聞いたり体験したりすることを通して知る。
- ・知りたいことや、やりたいことについて、仲間と話し合い、協力しながら進めることができる。
- ・栽培や販売活動を通して、働くことの喜びと大変さに気づき、働く人に感謝の気持ちをもつとともに働くことについて考える。

(2) 単元計画

※丸数字は時間・吹き出しは教科との関連・アルファベットは（2）へ対応

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
活 動 の 流 れ	「大豆の変身！」（45時間）											
	「枝豆を作ろう」⑩ ・やりたいことを話し合おう(a) ・枝豆を育てよう ・「おしえて！大豆のこと」栄養教諭の出前授業 ・枝豆を収穫しよう・食べてみよう ・もう一度枝豆を育てよう			「枝豆を食べてもらおう」⑫ ・販売のために必要なことを話し合おう(b) ・販売の準備をしよう ・収穫・袋詰めをしよう ・おうちの人や先生へ販売しよう ・売り上げ金の使い道を話し合おう(c)				「発信しよう」⑩ ・枝豆年表を作ろう ・枝豆新聞を作ろう ・学習発表会で報告しよう				
	国語「すがたをかえる大豆」・「豆腐作り」			社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」 理科「たねをまこう・植物の育ちとつくり」				算数「重さ」 算数「たし算とひき算の筆算」			国語「気持ちをこめて来ててください」「はんで意見をまとめよう」	

4 研究の実際

(1) 総合的な学習を軸とした横断的な学習指導計画の構築

主体的な学習が展開できるように、学習の始めにはウェビングマップを作成し、子どもたちの思いを生かしたテーマで学習計画を立てた。また、活動の中で、他教科で学習したことを体験的に生かせるように単元の構成を工夫した。

- 「おしえて！大豆のこと」・・・国語「すがたをかえる大豆」,「豆腐作り」, 特活「醤油工場の見学」など
- 「枝豆を育てよう」・・・理科「たねをまこう・植物の育ちとつくり」
- 「枝豆を収穫しよう, 食べてみよう」・・・社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」



<豆腐作り>

(2) 対話を通じた探究的な活動の充実

○やりたいことを話し合おう(a)

昨年も3年生では枝豆を育てたが、子どもの実態によって、毎年興味・関心が同じ訳ではない。枝豆を育てて、どうしたいか単元の始めに話し合うことで、教師主体ではない、子どもたち主体の話合いからこの単元でやりたいことが決まっていた。

○販売のために必要なことを話し合おう(b)

枝豆の値段を決める話合いでは、ある班から「スーパーでは一袋〇〇円で売っていたので〇〇円にしよう」という具体的な意見が出た。また、一袋何グラムにするかを決める話合いでは「形は揃っていない方もたくさん入っている方がお得」「形が揃っている方がおいしそう」など生活経験が生かされた様々な意見が出され、実際に販売するための準備につなげることができた。



<枝豆の販売>

○売り上げ金の使い道を話し合おう(c)

枝豆の売上から諸経費を引いた利益は4,160円。自分たちでがんばって稼いだお金であり、その使い方も含め、本単元の目標である「働くことについて考える」上で重要な活動である。子どもたちが話し合い、「みんなで稼いだお金を正しく無駄にしないように使おう」というめあてを決めて、使い方についての話し合いを行った。やはり活発な話し合いになり、最終的に決まるまで2時間かかった。「コロナ対策ができる物がいい。」「みんなで遊べる物がいい。」「クラスで使える物がいい。」と次々に意見が出てきた。それぞれの意見について、何度もめあてを振り返りながら考え、より多くの人がいいと思う物を選ぶことができた。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 総合的な学習を軸とした横断的な学習指導計画の構築

成果・子どもたちの話し合いから学習指導計画を立てることで、主体性が高まった。

- ・様々な教科の単元と関連付けて学習することで学んだことを双方向に生かすことができた。
- ・子どもたちから他の教科に自然と結びつけるような発言が多くなった。

課題・学習したことを発信する方法を予め決めておくべきだった。

- ・子どもの意見を生かすためにも、指導計画を途中で振り返り変えていくことも必要である。
- ・コロナ禍で、活動に制限があった。ICTなども活用し、農家の方に話を聞くなど、協働的な活動ができるようにしたい。

(2) 対話を通じた探究的な活動の充実

成果・子どもたちの対話を軸とした学習活動により、一人一人が主体的に取り組むようになった。

- ・グループごとに司会などを決め、自分の役割を自覚し、全員が話し合いに参加できていた。
- ・ホワイトボードや付箋などを使って話し合いを重ねたことで、話し合いが深まった。
- ・販売活動を自分たちで進めていく中で、一人ひとりが役割を担い、協働的に活動ができた。

課題・班での話し合いを学級全体に発表する時に、発表が苦手な子への支援が十分ではなかった。

- ・一人一人の活動を十分に見取ることができなかつたため、評価の手立てを工夫したい。